

# 令和4年度 学校評価書

教育目標：個性を伸ばし、創造力を豊かにして、共に生きる社会に貢献する人間を目指す 「進取」「自律」「融和」

## 1 学力向上と学習指導の充実（教務情報部）

十分に達成した（A）やや達成した（B）少々達成できなかった（C）達成できなかった（D）

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 学習習慣の定着と学力の向上を図る	<p>①面談週間を設定し、確実な面談を促す。</p> <p>②学習時間調査を実施する。</p> <p>③「高校生のための学びの基礎診断」の結果について評価・反省・改善を行う。</p>	<p>①年2回以上の面談を行い、学習習慣の定着を促す。</p> <p>②土日も含めて、1日学習時間90分以上を目指す。</p> <p>③各教科での分析結果を職員会議等で共有し、指導につなげる。</p>	<p>①1回目は5月、2回目は8月から10月の期間にすべてのクラス担任が面談を行った。</p> <p>②調査結果を進路希望別にしてわかりやすく表示した。どの年次も昨年度と比較すると10分から20分ほど学習時間が増加しており、意識的に学習できた生徒が多かったと思われる。しかし、1年次は60.9分、2年次は69.9分、3年次は64.2分と目標の90分には届かなかった。</p> <p>③各教科の分析結果をサイボウズにアップし結果を共有し指導につなげた。</p> <p style="text-align: right;"><b>C</b></p>	<p>②生徒・保護者の学校評価アンケートにおいても家庭学習に関するプラスの評価が低く目標を確認しながら、家庭学習定着のための方策を検討したい。</p>
(2) 魅力ある授業づくりを推進する。	<p>①探究的な学習の視点での授業改善を行う。</p> <p>②保護者への授業公開を行う。</p> <p>③指導・助言者の招聘や先進校視察など、研修を深める。</p>	<p>①授業研究週間に各教科で探究的な学習を取り入れ、一人一回以上研究授業の参観を行っていただくよう促す。</p> <p>②授業研究週間に保護者への授業公開を行う。</p> <p>③11月8日の授業公開日に指導助言者を招聘し研修を深める。</p>	<p>① 授業研究週間で探究的な学習を取り入れた授業を実施するよう呼び掛け、11名以上の先生方が研究授業を実施し、一人一回は授業の参観を行っていただいた。</p> <p>②授業公開日に6名の保護者の方が参観された。</p> <p>③県教育センターや天童二中を中心に多くの先生方（24名）をお招きし、助言を頂いた。特にICTの利活用については助言をもとに12月の職員研修会につなげることができた。</p> <p style="text-align: right;"><b>B</b></p>	

<p>(3) ICTの活用を推進する。</p>	<p>一人一台PCをはじめとした、ICT環境の活用を推進する。</p>	<p>ICTの効果的な利活用に関する事例を共有し、学校評価アンケートにおいてICTに係るプラスの評価80%以上を目指す。</p>	<p>他校のICT活用事例発表に関する研修会の案内を提示し、研究授業週間に本校の先生方の事例の共有を行った。12月に県教育センターから指導主事を招聘しICTの利活用に関する研修会を実施した。一方、学校評価アンケートのプラス評価は70%と目標に届かなかった。 <b>C</b></p>	<p>小中学校（特に天童市）では一人一台端末の利活用が進んでおり、比較すると、本校ではまだまだICTの活用が進んでいない状況にある。授業に対するプラス評価を上げ、80%以上にするためにも更なる研修が必要である。</p>
<p>(4) 読書習慣の定着を図る。</p>	<p>①朝読書の計画表を作成する。 ②読書の充実を図り、図書委員を通じて図書館利用を促進する。</p>	<p>①学校司書による巡回を行い、実施状況を把握し一人平均年間10冊以上の読破を達成させる。 ②学校評価アンケートにおいて図書館に係るプラスの評価70%以上を目指す。</p>	<p>①全体的には落ち着いて朝読書を行っており、学校評価アンケートのプラスの評価も95%と非常に高かった。12月時点での一人一人の読書冊数は6.7冊であった。 ②図書館だよりや学級文庫設置するなどして本の魅力を紹介し、図書館に係るプラスの評価は65%までアップした。 <b>B</b></p>	<p>①3月までに一人3冊以上読み、年間平均10冊以上になるよう引き続き本の魅力をアピールしていきたい。 ②学級文庫を設置する機会を多くしたり、各クラスでポップを掲示したりするなどして、生徒たちが本の魅力をアピールする機会を増やしたい。</p>
<p>(5) 「産業社会と人間」および「総合的な探究の時間」を推進する。</p>	<p>①3年間を通した「TONARIプロジェクト」の全体的な計画を立てる。 ②新しい教育課程に伴い、総合的な探究の時間の評価方法を確立する。</p>	<p>①進路探究部と協力しながら、令和4年度入学生の総合的な探究の時間の全体計画を立てる。 ②総合的な探究の時間に関する新しい評価基準を完成する。</p>	<p>①総合的な探究の時間の3年間を通した全体計画を作成した。 ②新しい「TONARIプロジェクト」を進めながら、評価方法の検討を行った。 <b>B</b></p>	<p>②総合的な探究の時間の令和5年度2年次からの観点別学習状況評価実施に向け、今年度中の評価基準の完成を目指していきたい。</p>
<p>(6) 新しい教育課程の完成と実施計画を作成する。</p>	<p>①新学習指導要領への移行と、2023年度から学級減への対応を見据えた授業のシミュレーションを行い、問題点を明らかにする。</p>	<p>①2023年度からの学級減への対応を見据えた、時間割の検討を行う。</p>	<p>①令和5年度の科目選択数が確定し、具体的な時間割の検討を行った。</p>	<p>①令和5年度は1年次が3クラス新カリ、2年次は4クラス新カリ、3年次は4クラス旧カリと様々な教育課程が混在する中で、各教科の先生方に協力を得ながらしっかりと時間割を作成し運用していきたい。</p>

	②地域を取り入れた特色のある授業の実施計画を作成する。	②生徒や地域の実態を把握し、地域と係わりを持った効果的で柔軟な年間指導計画を作成する。	②令和5年度から実施予定の「観光ビジネス」「社会一般」等の新しい科目の年間計画を作成した。 <b>B</b>	②「観光ビジネス」は教務情報部、進路探究部、商業科と連携しながら具体的な内容を決定し、特色ある授業を実施していく。
--	-----------------------------	---------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------

## 2 キャリア教育の推進（進路探究部）

十分に達成した（A） やや達成した（B） 少々達成できなかった（C） 達成できなかった（D）

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
<p>（1）進学・就職それぞれにおいて、より効果的に3年間一貫した指導を行う。</p>	<p>①学習習慣の確立と基礎学力の伸長をねらいとして、業者の学習支援サービスの導入を検討する。</p> <p>②キャリア教育の一環として、外部講師も活用した親子進路説明会および生徒向けのガイダンスを適切な時期に実施する。</p> <p>③3年次個別指導を全職員で行うにあたり、指導担当者への必要な情報提供を行う。また、年次・進路部で指導教員との情報交換を行う。</p> <p>④本校オリジナル手帳を定期的に活用させる。</p>	<p>①検討の場を設けたか。</p> <p>②進路ガイダンスの事後アンケートで確認する。</p> <p>③生徒の指導状況を話し合う場を複数回設けたか。</p> <p>④学生手帳（SSP）に記入する習慣をつけるために、年次ごとに定期的に活用する機会を持てたか。3年次に関しては、調査書や受験の際の提出書類に生かされたか。</p>	<p>①進路検討会等、年次や教科で情報共有を図り学習支援サービスを導入した。</p> <p>②事前アンケート95%プラス評価 2年10月の親子進路説明会後のアンケートに6月に奨学金説明会を忘れている記述があり見直しを検討</p> <p>③年次、進路探究部で情報を共有しながら指導することができた</p> <p>④・3年次では、SSPの記録を調査書等の出願書類作成に活用することができた。 ・各年次で定期的に記入指導はできたが、生徒の自発的な記入行動や習慣化が達成できているとまではいえない。 <b>B</b></p>	<p>①学習支援サービスの効果と今後の継続について検討する。</p> <p>②2年6月奨学金説明会の時期を保護者の負担軽減のために4月の総会時に実施</p> <p>④ ・記入ガイダンス（4月）を実施する ・重点項目の記入を促す</p>

<p>(2) 第一志望達成に向けた進学指導を行う。</p>	<p>①進学者の多い近隣の学校に関する正確な入試情報、特に進学用提出書類の作成について年次と共有する。</p> <p>②模擬試験の結果分析をもとに、より確実に各自の弱点把握を行い指導に生かす。併せて教員向けの外部研修会への参加を促す。</p> <p>③国公立大をはじめとした難関校希望者への早期指導を実施する。特に2年次後半からは、年次と連携してK&amp;Mチーム（国公立大学志望者・医療看護系進学希望者へのグループ指導）を行う。</p> <p>④共通テスト対策として、業者のオンライン指導等の紹介を検討する。</p> <p>⑤令和7年度（新教育課程）の受験情報を収集し、年次と共有する。</p>	<p>①適正に出願書類を作成ができたか。</p> <p>②学びの基礎診断、各種模擬試験の事前事後学習が実施されたか。また次の試験までの具体的取り組みが毎日の学習に反映されているか。</p> <p>③難関大希望者早期指導・2年次後期からのK&amp;Mチームの指導が無理なく効果的に実施されているか。また、継続性を重視し、適宜年次、教科と検討し、指導方法に修正を加えながら実施できたか。また、大学・短大及び看護医療系専門学校合格者71名（うち国公立大学2名）以上が達成できたか。</p> <p>④検討の場を設けたか。</p> <p>⑤生徒の科目選択に不安はなかったか。</p>	<p>①一部に出願の書類の差し替えはあったが概ね適正に事務処理ができた</p> <p>②教員向けの外部研修1名参加。模試の事前指導を行った教科もあった。</p> <p>③理工系希望者の少ない本校で、山工工学部へ12年ぶりに合格者が出た。大学・短大及び看護医療系専門学校合格者67名（国公立1名）、5名挑戦中。2年次K&amp;Mチームは12月から始動した。</p> <p>④検討結果、classiを導入。上位者の学力向上を期待していたが、課題配信が中心となり、本来の目的は遂げられなかった。</p> <p>⑤特になし。</p> <p style="text-align: right;"><b>B</b></p>	<p>①点検の役割分担については再検討</p> <p>②外部研修参加料を予算化していることを教科会などで周知する</p> <p>③次年度以降のために、指導過程を記録する。</p> <p>④生徒の実態に応じて、外部の業者や塾を活用した共通テスト対策について継続して検討する。</p> <p>⑤新年度、進行しながらに生徒の声を拾っていく。</p>
<p>(3) 民間就職・公務員指導を円滑に進める。</p>	<p>①3年次の希望職種に応じた事業所の情報について、年次と共有することで、円滑な受験先決定につなげる。</p> <p>②1年次後半から継続して、外部講師を招聘した就職ガイダンスを行う。</p>	<p>①生徒が十分な指導を受けて、就職・進学の試験に臨むことができたか。また、外部研修の成果が主に教科内で共有できたか。</p> <p>②就職内定100%、公務員試験合格者10名が達成できたか。</p>	<p>①生徒に対する就職進学の試験対策を全職員で行うことができた。</p> <p>②最終的に民間企業就職を希望する生徒39名は100%内定した。コロナ関連</p>	<p>①今後も全職員体制で指導する</p> <p>②・保護者へ新規学校卒業予定者がハローワークを利用して就職するメリット</p>

	③外部講師による定期的な公務員受験指導と並行し、結果判明後の進路検討のための情報提供も早めに行う。	③公務員からの進路変更適切に対応できたか。	<p>で模擬面接が中止になった回もあったが就職セミナーは実施できた。公務員5名(6名)合格、2名2次募集に挑戦中。</p> <p>・7月まで就職希望だった生徒が正規就職を望まないなど、3年間一貫した指導とはいえない事態が3件もあった</p> <p>③公務員講習会参加状況や学習への取り組みが直前になってから向上するということがあった。結果判明あとの指導は、年次と連携し、スムーズに対応できた。</p> <p style="text-align: right;"><b>B</b></p>	<p>を周知するためにこれまで同様の時期に毎年、親子進路説明会を行う。</p> <p>・3年間を見越したクラス編成や職員の役割分担、面談時に担任以外も加わるなど多様化する生徒や家庭に対応する考え方が必要</p> <p>③公務員講習の募集時に公務員志望理由の意識付けを図り、生徒の意欲向上を促す。</p>
(4)進路達成の観点を含め、3年間の体系的な探究学習を進める。	<p>①年次と連携し、3年間を見通した探究活動を確立する。下学年の見学を含めた発表の機会を検討する。</p> <p>②総合型・学校推薦型選抜に活用できる3年次のサポートを行う。</p>	<p>①講師の手配や必要に応じた外部との連携など、活動のサポートを行うことで各年次の探究活動が円滑に進んだか。</p> <p>②生徒の振り返りシートで確認する。</p>	<p>①3年間を見通した体系を整備できた。各年次と連携をとりながら円滑に探究活動を進めることができた。</p> <p>②生徒の振り返りシートをもとに志望理由や調査書推薦書を作成することができた。</p> <p style="text-align: right;"><b>B</b></p>	①年次に過度な負担がない継続した活動を維持しつつ、進路探究部内の役割分担および、年次探究担当との役割分担を検討する。

### 3 生徒指導及び特別活動の充実・強化(生徒保健部)

十分に達成した(A) やや達成した(B) 少々達成できなかった(C) 達成できなかった(D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 安全に対する意識の高揚を図る。	①交通ルール・マナーの遵守、自転車走行上注意等に関する効果的な安全教育・安全管理により生徒の安全	①事故件数・苦情件数等の前年・前前年度の比較や安全管理に関する各種取組の充実度で評価する。	① 交通ルール・マナー遵守等の指については、指導の内容を検討しながら機会を捉えて行ってきた	①今後も機会を捉えて交通ルール・マナー遵守等に対する啓発活動を継続していく。

	<p>を確保する。</p> <p>②保護者・地域との協力により登下校時の生徒の安全の確保に努める。</p> <p>③交通安全委員等の恒常的な自主的活動を促す。</p>	<p>②学校評価アンケート（生徒）（保護者）で評価する。</p> <p>③交通安全街頭指導や交通安全委員会の活動回数等により評価する。</p>	<p>事故・苦情件数は少ないが、軽微な接触事故が2件起っている。</p> <p>②今年度は生徒・保護者と協力して交通安全指導を行った。生徒への連絡が不徹底な部分も見られた。学校評価アンケートでは生徒の「交通ルールを守り安全に登下校している」の項目が生徒89%、保護者77%となっており職員との意識の乖離がある。</p> <p>③昨年度実施できなかった交通安全委員による街頭交通安全指導は2回実施できた。</p> <p style="text-align: right;"><b>C</b></p>	<p>②PTAとも協力しながら、次年度以降についても交通安全に対する意識の高揚をはかっていく。</p> <p>③交通安全委員会を中心とした生徒の恒常的な活動を推進していく。</p>
<p>(2) 生徒が自ら企画し、主体的に参加・運営する生徒会活動・部活動を推進する。</p>	<p>①生徒会を中心にあいさつ運動を推進する。</p> <p>②各種委員会の自主的活動を推進する。</p> <p>③コロナ禍ではあるが各種行事等への積極的な参加を促す。</p> <p>④地域貢献活動に積極的な参画を促す。</p> <p>⑤部活動への主体的な参加を促す。</p>	<p>①あいさつ運動への参加回数等で評価する。</p> <p>②各種委員会等に対する反省を集約する。</p> <p>③生徒会活動・行事等への参加に関する生徒のSSPへの記入内容により評価する。</p> <p>④ボランティア等への参加回数等で評価する。</p> <p>⑤部活動の加入率と大会成績等で評価する。</p>	<p>①生活委員会としてのあいさつ運動には取り組んだが、学校全体としての取り組みにはなっていなかった。生活委員はテスト期間を除く毎日交代で参加した。</p> <p>②学校行事への生徒のアンケートは92%と高いが、自主的な活動とはなっていない。</p> <p>③コロナ禍ではあり活動が制限される部分はあったが、クラスマッチ・天高祭を予定通り実施できた。生徒会執行部の生徒は行事に対する充実度が高かった。</p> <p>④外部のボランティア募集は増加しているが、ボランティア参加率は24.5%（参加人数111名（延べ164名））に留まった。</p> <p>⑤部登録の段階では、今年度未決定者は2名であった。</p>	<p>①あいさつ運動の推進の仕方について生徒会とともに推進できる体制づくりを行う。</p> <p>②生徒会行事については、生徒の自主的活動として指導していく必要がある。</p> <p>③一人ひとりが積極的に参加できる学校行事となるよう工夫するとともに、生徒会行事へのかかわり方についても検討する。リーダーの育成にも注力していきたい。</p> <p>④コロナ禍でありボランティア活動の機会も失われているが、今後も年間一人一ボランティアを目指して取り組んでいく。</p> <p>⑤未決定者がないように指導していく。</p>

	⑥学級減に伴う各種委員数や活動内容の検討を行う。	⑥4クラス規模の適正な委員会数や部活動数と活動内容の検討を行い、改善する。	インターハイには2競技7種目で出場を果たした。空手道・なぎなた・ダンス部が全国大会に出場した。またこのほか、陸上競技部、弓道部が個人で東北大会に出場した。 ⑥活動内容を踏まえ、3学級規模での委員会の在り方については検討をきている。	⑥生徒会の委員会数やその活動内容、部活動の適正数については、さらなる検討必要である。
(3) 規律ある学校生活を確立する。	①定期的な身だしなみ点検を行い、清潔感ある服装となるよう指導する。  ②携帯電話の使用ルール・時間の遵守ができるよう啓発活動・管理指導をう。  ③教室移動や集会時における整列など時間に対する意識付けを行う。	①身だしなみ点検の実施状況と個別に指導を受けた生徒者数により評価する。  ③生徒・教員による啓発活動の実施状況と生徒の意識や実態の把握に務める。  ③教員・生徒会による声かけ等の啓発活動や集会時等の整列状況等で評価する	①計画通り身だしなみの検査は実施できたが、コロナ禍であり何らかの欠席が重なる生徒もおり把握が難しかった。再検査や経過観察の生徒はいたが、個別に指導するまでには至らなかった。保護者アンケートでは「服装・頭髪など、生徒の身だしなみはよい」の回答が85%と高い。 ②携帯電話の利用についての危機管理講演会を実施したが問題の改善には結びついていない。 ③年度当初には授業の移動に関する校内放送を実施したが、年間を通して実施すべきであった。全校生徒が一堂に会する生徒集会は実施することはできなかった。	①平常授業時における身だしなみの指導について、全職員が共通認識に立ち今後も指導していく必要がある。  ②携帯電話等の指導については、利用時間や校内における使い方について初期指導も含め重点的に取り組んでいく。 ③集会の在り方等については、今後の状況の推移を考慮し実施を検討していく。
(4) きめ細かい生徒指導体制を確立する。	①生徒指導上の問題の共有化を図り、年次やヘルスサポート委員会、いじめ防止対策委員会等と連携し、組織として対処していく。 ②生徒の安全・安心を確保できる生活	①生徒指導上の問題に対する対処の方法等について、情報の共有が図られているかによって評価する。 ②いじめアンケート調査や問題行動数	①今年度の各年次等における問題については、生徒保健部と年次で情報の共有化を図りながら進めることができた。 ②ここまでいくつかの生徒間のトラ	①②バッテリーM2などの結果を生徒指導に生かせるような情報共有の場の設定と、今後の生徒指導の在り方を検討していく。

	環境と生徒間トラブルの未然防止に努める。	の把握等から評価する。	ブルが発生しているが、原因の究明と共有化を図ってきた。問題行動は1件もなかった。	いじめを許さない雰囲気づくりに努め、いじめの対応にあたっては、より一層の組織的な対応ができるよう、共通理解のもとに取り組みを進めていく。
			<b>B</b>	
(5) 心身ともに健康的な学校生活を確立する。	①スクールカウンセラーによる健康相談活動を充実させる。 ②健康診断や各種検査の事後指導の徹底を図る。	①不登校、別室登校のゼロを目指す。 ②健康相談活動を年間18回以上実施できたかで評価する。 ③健康診断後の精密検査受診率が向上しているかどうかで評価する。	①対人関係、家庭の問題、病気による不登校の生徒がいたが、各年次と情報交換しながら対応した。 ②年間18回、計画通り実施した。 ③内科的疾患の精密検査は、概ね順調に報告がなされている。受診率は尿検査100% 心電図検査100% 貧血検査100%であったが、歯科検診4.8%、視力検査38%にとどまっている。	①生徒間のトラブルや課題解決に向けて情報を共有し、具体的な指導支援を検討し実施する。(虐待、ネグレクト、ヤングケアラーの問題も含め検討) ②調整しながら継続して実施する。生徒の社会性を培うためにソーシャルスキルトレーニングを取り入れた指導を検討する。 ③11月、1月に精検勧告を継続し、視力検査の報告率を上げる。
				<b>B</b>
(6) 新型コロナウイルス感染症を予防する	①毎朝の検温チェックを行い、生徒の体調把握に努める。  ②朝の手指消毒、授業間の換気、マスク着用、手洗いの励行など、有効な感染対策を日常的に行う。  ③校内における環境整備も含めた清	①検温チェックシートの記入状況や校内でのクラスターの発生の有無で評価する。  ②登校時や移動教室時に点検するとともに、指導教員等のチェック状況により評価する。  ③月1回の重点清掃日を設け、保健委員	① 前期は検温チェックシートによる健康観察を毎日実施した。後期からはさくら連絡網で実施した。朝の電話の煩雑さはなくなったが担任による欠席理由確認が大変になった。4月末に3年・2年次学年閉鎖、8月末に1年次の学級閉鎖があった。10月末から11月中旬に1年次の学級閉鎖があった。 ②登校時や移動教室時に点検するとともに、授業中や授業前後の換気の励行に努めた。	①学校行事や部活動の感染防止対策は、人的管理等も含めて、チェックリストを活用し厳しく管理をしていく。  ②引き続き、体温チェック、体調把握、授業間の換気、マスク着用、手洗いなどの感染防止対策を継続していく。



	掃・美化活動を推進する。	と生徒部職員の点検状況等で評価する。	③後期、月1回清掃強化週間活動を実施した。 <b>B</b>	③重点清掃日を明示し、点検活動を継続していく。
--	--------------	--------------------	-----------------------------------	-------------------------

#### 4 安全・安心な学習環境の整備（総務広報部）

十分に達成した(A) やや達成した(B) 少々達成できなかった(C) 達成できなかった(D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 安全点検を実効あるものにし、安全・安心な学習環境を整備する。	月1回の安全点検の結果を、校内グループウェアなどを活用して全職員で共有し、学習環境の整備に努める。	安全点検の確実な実施と公表、点検で確認された異常箇所の修理・修繕等の状況により評価する。	①月に1回の安全点検の実施と結果の共有を確実に行った。修理・修繕も、事務部の協力によりスムーズであったが、予算の都合や老朽化により修繕ができない箇所があった。(駐車場のロータリー・体育館のポール立て支柱) <b>B</b>	①修理・修繕について、危険箇所の優先的対応や、高額修繕の予算確保など、事務部との連携をより密にして進める。
(2) 防災及び情報セキュリティについて、一人ひとりの危機管理意識を高める。	①年2回の防災訓練のうち一回は「シナリオ提示型」、もう一回は「ブラインド型」訓練を行い、より実効あるものにする。  ②情報セキュリティの強化を図るための情報提供及び職員研修を行い、問題発生皆無を目指す。	①危機管理委員会を開催し、防災訓練の成果と課題を検討する。また、学校評価アンケート(生徒)で防災訓練の成果を測る。  ②情報セキュリティに関する問題発生状況及びその対応で評価する。	①6月に「シナリオ提示型」(予告あり)、10月に「ブラインド型」(予告なし)、12月に「弾道ミサイル落下想定」の防災指導を行った。また、危機管理委員会を実施し、職員の防災組織を確認した。アンケートの中で「緊急の際に安全に避難できる」と答えた生徒は全体で95%で高評価だった。 ②情報セキュリティに関する問題は、今年度は発生しなかった。 <b>A</b>	①コロナ禍であっても取り組める効果的な防災指導について検討して実践し、「緊急時には安全に避難できる」という生徒の自信をさらに高めたい。  ②次年度、『緊急時対応マニュアル』点検・改定の際に、情報に関する危機管理についても盛り込んでいけるよう、検討を進めていく。

#### 5 家庭や地域との連携強化と情報発信（総務広報部）

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 校外の様々な地域	①全校で一人一ボランティアの活動を推進し、地域貢献活動を行う。特に、	①生徒のボランティアの総数で評価する。(一人平均一回以上を目指す。)	①「天童桜まつり、人間将棋」に3年次25名、「天童夏まつり、花笠おどりパ	①②今後も、コロナの感染状況を見ながら、活動可能なボランティアや地域活動

<p>ボランティア活動を通じて、「地域に貢献し、地域と共に歩む心」を育てる。</p>	<p>コロナ禍によって昨年、一昨年度中止となった「天童夏まつり」に積極的に参加する。</p> <p>②生徒保健部と連携し、地域の行事に進んで取り組んでいくことで、地域の一員としての意識と地域に貢献する態度を育てる。</p>	<p>②学校評価アンケート（生徒）（保護者）により、ボランティア活動・地域貢献活動の成果を測る。</p>	<p>リード」に3年次3名、1年次23名、ボランティアとして1・2年次15名が参加した。また東日本大震災の被災地 寒風沢島へ生徒33名が訪問し、大いに社会貢献することができた。しかし、年間のボランティア報告件数は144件、実人数97人（1月現在）で年間1人平均1回以上には届かなかった。</p> <p>②アンケート「ボランティアや社会貢献活動は活発（生徒：68%、保護者70%）」はやや低評価だった。 <b>C</b></p>	<p>の機会を逃さず、生徒の地域貢献意識の向上に生かしていかなければならない。ボランティア後の報告書提出について一斉に入力させる機会をもうける等工夫をする必要がある。</p> <p>また、「天童夏まつり」をはじめとする地域行事等の参加ボランティアについて、R1まで（コロナ前）とは違った形での参加も模索していきたい。</p>
<p>(2)保護者と連携し、学校行事やPTA諸行事を円滑に行う。</p>	<p>①PTA諸行事の出席率80%以上を目指す。</p> <p>②令和5年度の学級減に向けて、PTA諸活動の見直しを図る。</p>	<p>①PTA諸活動の参加率により評価する。</p> <p>②各専門部の役員の意見を、目に見える形の変化にまとめることにより評価する。</p>	<p>①PTA総会（紙面開催）の意向確認書提出率は91%、第1回評議員会（4月）の参加率は64%であった。天童夏まつりの巡回指導の参加率は54%、村山地区PTA研修会には15名割り当ての中、17名が出席し、植栽活動や交通安全指導、広報誌編集活動等、保護者等の高い参加率は維持できた。</p> <p>②PTA評議員の人数減にあわせた専門部数の見直しについて、準備を整えることができた。 <b>B</b></p>	<p>①コロナ禍により計画通りのPTA活動ができない部分もあるため、この状況下で実施できる活動内容を再検討し、また、事後に紹介・発信するなども考えていきたい。</p> <p>②令和4年度PTA総会で規約改正の後、令和5年度から新専門部でスムーズに活動できるよう、活動内容の整理や移行準備を進めていく。</p>
<p>(3)生徒の活動をはじめ学校の教育活動に関する情報を積極的に発信する。</p>	<p>①興味深く魅力的なホームページを目指して、適切かつ積極的な更新を心がけ、生徒・学校の活動が見えるような情報発信に努める。</p> <p>②ホームページ年間運用計画を作成し、全職員が一人1回以上、かつ年間総更新数50回以上を目指す。</p>	<p>①学校評価アンケート（保護者）でホームページによる情報発信について評価していただく。</p> <p>②計画に従って一人一回以上更新し、年間50回以上の更新を行ったかで判断する。</p>	<p>①保護者アンケート「ホームページで適切に伝えられている」は81%で、高評価を維持している。</p> <p>②ホームページ年間運用計画に基づいて担当者への声かけ等を行い、職員36名中22名の更新となった。(1/12現在) また、年間計画の更新は、44件中24件、年間計画以外の更新は131件で合計155件の更新であった。 <b>B</b></p>	<p>①②今後もホームページの適切な更新のため、運用計画の見直しをしていく。また、授業・部活動などについても積極的に更新できるような取り組みを検討するなど、興味深い魅力的な内容にするため方策が必要である。</p>

## 学校関係者評価委員から

### 1 「学力向上と学習指導の充実」について

- ICTの効果的な活用というのは、なかなか難しいと思う。先生の力量によって、差が出てしまうのではないかと感じる。タブレットでも何でもよいが、最近の機器を使って、楽しい授業ができるのか、子どもたちの実力に結びついているのか、と思う。あまり急がずに、いろんなやり方があるので、ICTに執着する必要はないと思う。ゆっくりのんびりでいいのかなと思う。
- コロナ禍の中でこれからできることは限られていると思うが、交流などを通して大きくなっていくので、そんなことを教えていっていただければと思う。成績も大切だが、向かう姿勢、取り組む姿勢が大切で、仕事につながると思う。
- 前回の意見交換の際に、観光について言ったが、学校科目に観光ビジネスを入れていただき大変ありがたく思っている。となりプロジェクトについては、我々地元の人間として大変楽しみにしている。我々の専門的な観光に関する知識、経験が必要であれば、いつでもカリキュラムを作りますし、実際に実施するところでも120%協力させていただきますので、なんなりと言っていただきたい。

### 2 「キャリア教育の推進」について

- 天童高校は、多様な進路があって、よく指導されていると思う。これだけ多様な子どもたちを多様な進路に導いて、ほんとにそれが一番大事なことで、今後もどうぞ頑張してほしい。
- 天童高校の生徒は素直な生徒が多い。のびのびと授業を受けていて、大変感銘を受けた。羽陽短大の学長の立場を離れて申しますが、宮城県から山形県にくる受験生が減っている。秋田から山形からが仙台に行く。山形県の魅力をきちんと伝えないと、山形の人が離れていってしまう。県内の進路先、県内で働く人を育てて、地元の魅力を発信すること大切なのではと感じます。

### 3 「生徒指導及び特別活動の充実・強化」について

- 同じ教育に携わる者として、働き方改革というのも出てきている。この場でなにか改革に向けて取り組んでいることがあれば教えていただきたいと思いません。
- 部活動について本校は310人いるが、外部活動（サッカー、モンテ、ダンスなど）いろいろあるが、そちらで4,50名、無所属が10名ぐらい。学校の部活には60名ぐらいは入っていない。8割が学校、2割が外部活動になっている。

### 4 「安全・安心な学習環境の整備」と「家庭や地域との連携強化」について

- 3年生はコロナ禍が始まってからの学生生活で、普通の高校生活はできていないが、そんなことも踏まえて、指導していただいて感謝している。

### その他

- 人間の行動を作っていく過程の中で、PDCAサイクルを回そうというのが必要ということで、今日の資料の中に、計画をたてて、それがどういう成果だったのか、がまさに今日のテーマ。アンケート調査を点数化していること、抽象的な文言、去年よりはいいよね、去年と比べてどのくらいいいののか、を数値化しないとわからないところ。取り組む姿勢としては大変素晴らしいものだと思う。

